

たんのう まちづくり楽集会 2005

～ ついついと人の輪が広がるまちづくり活動の進め方 ～

まちづくり活動を進めていく中で「ひっかかり」があり、なかなかうまく活動が進まない。そんなお話を良く聞きます。

今回は、そんなまちづくりの「ひっかかり」を「とっかかり」とする「きっかけ」について、岐阜市内でまちづくりを進めておられる皆さん約30名が講師の延藤先生と一緒に話し合い、会議やまちづくりの手法、考え方等を学びました。



延藤 安弘 先生
 (「NPO法人まちの縁側育み隊」代表理事
 愛知産業大学大学院教授 工学博士)

1

2月21日(火)「わくわくまちづくり幻燈会」 会場 ハートフルスクエア-G 中研修室

まずはたっぷりと幻燈会。

ふたつのスクリーンとスライド映写機を使った延藤先生独特のスタイルで絵本や他都市事例を紹介。

その後のQ&Aコーナーでは日頃の疑問や悩みを出し合いました。

幻燈プログラム

- ①私発協働 - 思いつく、動く、共感をよぶ。協働して行動する、輪が広がる
 ⇒ 絵本『ブルムおじさんの楽園』(エリザ・トリンビー, 英国)
- ②つながりをつなぐ - 「上意下達の分担」としての分解をこえて「私発協働つながり」としての分有へ
 ⇒ まちの縁側 MOMO (名古屋市東区)
- ③「プログラム外」尊重 - 無定形なもの、予測不可能なもの、プログラムされていないものを大切にする。
 ⇒ 「絵金まつり」「冬の夏まつり」を生かし住民・行政・NPOの協働による「絵金蔵」づくりへ
 地域資源の発見的まち育てへ (高知県赤岡町)

2

2月28日(火)「楽しい会議の進め方」 会場 市役所西別館 第1.2会議室

「こんな会議はいや!」「いけてる司会者って岐阜弁で言ったらどんな人?」をテーマに話し合いました。

幻燈プログラム

- ①トンネル
 (ブライアン・ワイルドスミス, 英国)
- ②もぐらの丘
 (ロイス・ライト, 米国)



こんな会議はいや!

きりがなくしゃべり続ける
 もく(目的)が定かでない、長引く
 ちが(違)う多様な本音意見
 が(我)田引水的な独りよがり発言
 の(ノ)りが悪い。静か。
 らん(乱)雑、勝手、バラバラさ
 なぜか根回しすぎ「結果が見え見え」
 い(意)味ある提案出ない

☹️ 気持ちに乗らない

いけてる司会者って岐阜弁で?

つね(常)に話をよく聞く
 なご(和)みと笑みを絶やさずユーモアに
 ぎ(ギ)クシャクヤや対立を活用
 じ(自)分の感情を抑えながら全体へ気配り
 よく人の心に響く地域性を写しこむ表現力
 う(迂)遠なる議論にも耐える「ねばり」
 ず(ズ)キンとする程のどえりゃあおもしろい人 (ジン)

☺️ 「つなぎじょうず」な
 どえりゃあぬくといいおもしろい人 (ジン)

3

3月11日(土)「タウンウォッチングからまちづくり構想づくりへ」 会場 ハートフルスクエア-G 中研修室

参加者の話し合いで決めたタウンウォッチング先「玉宮」をみんなで歩き、「どうしたら住民皆が参加できるまちづくりが出来るか話し合い、提案を発表しました。

まちを歩き

玉宮町では道路修景をきっかけにまちづくり協定を作りました。

おもしろい所や気になった課題点などをカメラでパチリ

みんなでまちへの提案を話し合い

まちづくりの話を聞き

